

## 取組実績の概要 【2ページ以内】

### 1. 本事業で新規に立ち上げ、毎年実施してきたプログラムの概要と成果

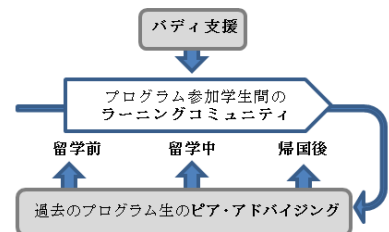
<b>(1) 入学前留学プログラム (3月実施) (American Cultural and Academic Experience at St. Edward's - ACCESS)</b>	
[概要]APU入学予定者が、入学直前にSEUへ2週間の短期留学をするプログラム(日本の大学初の試み)。SEUで、SEU教員による英語の授業とAPU教員による入学前準備授業、SEUの学生バディとの交流、フィールド・トリップ等を実施。	
[成果]国際的視点を入学時から意識。目標設定から入学後の学習計画が明確に。入学後のモチベーションUP(一般学生より高いGPA)。	
<b>(2) 積み上げ式協働教養プログラム</b>	
<b>Business in Japan プログラム - BIJ (3月実施)</b>	[概要]国際ビジネスを専攻するSEU学生が、APUにて日本やアジアのビジネスについて学ぶ約1週間のプログラム。APU教員による授業、日本企業・在日米国企業・公官庁の訪問等を通してアジアにおけるビジネスの知識を深める。 [成果]産業界との連携による専門教育の学びの高度化。APUバディとの密な交流(バディ自身の成長にも寄与)。
<b>SEU-Gateway プログラム (6・7月実施)</b>	[概要]SEU学生がAPUにて2ヶ月間、日本語と日本文化を学ぶプログラム。APU教員による日本語クラスと、APU・SEU両教員とAPU・SEU両学生が共に学ぶ協働開講科目の受講、フィールド・トリップや農泊、学生バディとの交流など。 [成果]日本語・日本文化の基礎理解。地域との交流による自国文化の再認識。協働授業スタイルのモデル構築。
<b>Global Communication Program - GCP (6・7月実施)</b>	[概要]APU学生がSEUに2ヶ月滞在。SEUの定評あるリベラル・アーツ科目を履修しながら英語能力の向上を目指すとともに、地域でのボランティア活動やSEUバディとの交流を通じ、コミュニケーション能力の獲得を目的とする。 [成果]実践的な英語力の向上。卒業生と共に考えるキャリア教育の実施。先輩学生のピア・サポート体制の構築
<b>Southeast Asian Studies Program - SEAS (8月実施)</b>	[概要]GCPでSEUに留学したAPU学生、SEU-GatewayプログラムでAPUに留学したSEU学生が、タイ・マレーシアにて2週間、「東南アジアにおける宗教と多文化社会」をテーマに協働学習を行う。 [成果]APU・SEU両学生ともに異文化理解力・コミュニケーション能力の向上。第3国での協働学習モデルの構築。
<b>(3) 協働ダブル・ディグリー・プログラム (Dual Undergraduate Degree Program - DUDP)</b>	
[概要]APU・SEU両大学で開講される教養教育と専門教育を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得が可能となるプログラム。	
[成果]高い英語運用能力に加え、専門知識を身につけたグローバル人材の育成。両大学の卒業要件を緻密に織り込んだディグリープランの設計。派遣・受入れともに安定したダブル・ディグリー・プログラムのモデル構築。	
<b>(4) キャップ・ストーン科目 (※キャップ・ストーン200のみ実施。キャップ・ストーン300は来年度実施を検討中)</b>	
[概要] SEASプログラム中に、GCP及びSEU-Gatewayによって得られた多様な知識を統合、専門教育に繋げることを目的とした科目。	
[成果] APU・SEU両大学の学生による多文化チームで現地での講義や調査をまとめあげる学際的な学びの展開。	

### 2. 上記プログラムに共通した取組とその成果

#### (1) 学生主体の留学モデルの構築

##### ●留学ピア・サポートシステムの構築(右図参照)

上記プログラムを横断して、プログラムに参加する学生同士、先輩学生、派遣先でのバディを巻き込んだ「学生が学生の成長を支援する留学ピア・サポートシステム」を構築した。帰国後は、プログラム学生が次年度の参加学生を支援することで、留学での学びを還元し、更なる自己成長に繋げている。

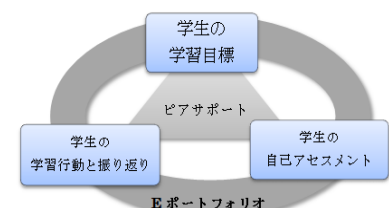


##### ●バディ養成によるプログラム学生・バディの双方向の学びの促進と支援の循環

この5年間で上記プログラムに参加した両大学の学生は延べ422名。それに加え、両大学で本事業に関わるプログラムのバディを経験した学生は延べ287名、あわせて709名もの学生が本事業に関わってきたこととなる。徹底したバディ養成は、受入れ支援の強化だけでなく、バディ自身の成長を促し、プログラム学生とバディの学び合いを高めている。またプログラム中にバディの支援を受けた学生が、受入れプログラムでのバディやTA等になって支援を返すという循環型支援サイクルも生まれた。本事業のプログラムを経験した学生の多くは、プログラム以外にも、学内の様々な場面においてピア・サポートに継続して関わる傾向が顕著にみられる。

#### (2) 学びの質保証「留学eポートフォリオ」の構築

留学eポートフォリオにより、学生(派遣・受入れ)の学びを深め、可視化・モニタリングと形成的支援を送り、学びの成果研究も行った。また学生の目標達成に向けた振り返りやアセスメントを学生自身がを行い、参加学生同士、さらに前年度参加生がピア・サポートを提供する学生中心型教育デザインを構築した(右図参照)。自己目標達成に向けた学生間の取組が支援・強化されている。



#### (3) プログラム事前・中・後の継続サポートと進路・キャリアへの接続

留学前、留学中、留学後に、授業・eポートフォリオ支援・アドバイジングを提供。帰国後は、留学での学びを振り返り、その後の進路・キャリアに生かすセッションを実施。教職員、TA、ピア・アドバイザーも総動員する事後セッションは、GLUEコミュニティ\*での学び合いの

場となっている。また、先輩プログラム学生とのキャリア懇談会や、留学での学びと今後のビジョンを伝えるグローバルスピーチ大会など、学生間のキャリアビジョン形成支援の取組も行っている。留学中は現地の国際企業訪問も実施している。帰国後、プログラム学生の多くは、留学経験を生かして学内・外の国際的な活動でリーダーシップを発揮し、その後の国際的なキャリアにも繋がっている。

\*GLUEとは、本学内における本事業全体の通称（Global Collaborative University Educationの略）

#### (4) 成果研究：アセスメントの実践と日米協働教育における学習成果の特定

「eポートフォリオ」を運用し、留学中の学びのエビデンスを蓄積し、分析を行った。異文化間コンピテンシーについては、「IDI（異文化感受性発達尺度）」の測定を留学前後に実施し、フィードバックの提供と学習支援を行っている。またGlobal Learningルーブリック（AAC&U）の開発者の1人であるSEUのBlair氏率いるチームと共に、両大学の学生を対象に、「Global Learningルーブリック」を運用した共同アセスメントも実施している。平成26年度には、これらの経験を踏まえ「日米協働教育のアウトカム（学習成果）」を両大学で特定した。それをもとに「GLUEルーブリック」を開発し、活用を開始した。また両大学の学生（卒業生を含む）とパディを対象に、プログラムのインパクトを捉える「2大学の長期インパクト研究」も、両大学共同で行っている。これらは本事業での学生の学びと成長の理解に繋がった。

### 3. SEUとの協働の意義

#### ●強固なパートナーシップの構築

上述の取組と成果は、両大学の確実な連携体制が図れずには成し得なかった。事業開始前から事業期間中を通して、両大学の学長を筆頭に、多数の教職員が双方向でキャンパスを訪問し、密な交流と多くの協議を重ねてきた。相互に関わる学生数や交流の機会も年々増加している。協働開講や第3国での協働学習、DUDPのモデル構築、ルーブリックの共同開発、共同アセスメントなど、多くのプログラム・取組の実施が可能となり、協働がもたらす意義と効果を証明することができた。SEUとは今後もスーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業における国際連携重点拠点校として、協力関係を強化していく。

### 4. 学外への成果発信と波及効果

#### (1) 学外への成果の発信

本事業での取組においては、特にAAC&Uでのルーブリックやeポートフォリオを運用したアセスメントにより、国際教育の課題である質保証と学習成果の可視化・分析に努め、成果を国内外に発信してきた。これまでに論文発表を3本（査読付）、国際学会での発表を3回、国内研究会等での発表を10回以上（うち8回は招待発表）実施し、成果の普及に努めている。AAC&Uの「Global Learning in College」とNAFSAのFaculty Conversation（招待発表）におけるアセスメント研究の発信は、日本の大学で初となった。

#### (2) 学外への波及効果（地域貢献）

SEUが位置するテキサス州オースティン市は大分市と姉妹都市関係にあり、本学学生は派遣プログラム中に実施された姉妹都市交流イベントでも積極的に支援し、2都市間交流の発展に寄与している。GCPプログラムでは、サービスマーケティングの授業の一環で、地域の社会貢献団体でボランティアとしての関わりを続けており、また、恒例となった日本紹介イベント「Welcome to Japan」は、オースティン地域の一般市民に広く公開され、多くの住民に日本文化へ触れる機会を提供、日本文化に関心を持つ親日家を増やすことにも貢献している。

### 5. 本事業がもたらした学内への効果と今後の展開

#### (1) スチューデント・モビリティの推進と、国際交流プログラムの豊富化・多様化

本事業の推進により、年々確実に学生のモビリティが高まり、国際交流プログラムの参加者が増加している。また、既存の海外派遣プログラムに本事業のプログラムを加えることで、国際交流プログラム全体が多様化・豊富化し、学生のニーズやステージに合わせたプログラムを段階的に提供することのできる仕組みが整った。この積み上げ式のプログラム設計により、本学のカリキュラムと国際交流プログラムの中で教養教育から専門教育へと連関する体系化が実現した。また、本事業で開発したeポートフォリオの活用やコミュニティ形成は、学内の他のプログラムでも応用し始めており、本学の国際交流プログラム全体の内容の高度化にも繋がっている。

#### (2) 今後の展開（本事業のプログラムをモデルとした、新たなプログラム開発の取組）

本事業で新規に立ち上げたプログラムは全て、若干の内容変更を加え、継続して実施する予定である。入学前留学プログラムは平成26年度からSEUに加えて2大学と実施する形となり、同じくDUDPの実施大学も1校増やすことが可能となった。DUDPはさらにもう1校との実施を進めている段階にある。第3国での協働学習のノウハウを学内に還元したプログラムとして、平成29年春にはタイ・マレーシア・ラオスで、国内学生と国際学生が共にフィールドワークを行うプログラムを実施予定。本事業の成果が、新たなプログラムへと着実に展開している。

【本事業における交流学生数の計画と実績】 ※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	20人	20人	65人	30人	70人	30人	70人	35人	70人	35人	295人	150人
実績	8人	16人	49人	40人	65人	28人	68人	35人	65人	48人	255人	167人